【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成20年9月18日(2008.9.18)

【公開番号】特開2003-88554(P2003-88554A)
【公開日】平成15年3月25日(2003.3.25)
【出願番号】特願2001-284742(P2001-284742)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｆ　13/49　(2006.01)
Ａ６１Ｆ　13/53　(2006.01)
Ａ６１Ｆ　5/44　(2006.01)
Ｃ０８Ｊ　3/24　(2006.01)
Ｃ０８Ｊ　5/04　(2006.01)
Ａ６１Ｌ　15/60　(2006.01)
Ｃ０８Ｌ　101/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ４１Ｂ　13/02　Ｄ
Ａ６１Ｆ　5/44　Ｈ
Ｃ０８Ｊ　3/24　Ｚ
Ｃ０８Ｊ　5/04　ＣＥＰ
Ａ６１Ｆ　13/18　３０７Ａ
Ｃ０８Ｌ　101:00

【手続補正書】
【提出日】平成20年8月5日(2008.8.5)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】　Ｌ-アスコルビン酸２００ｐｐｍと２価の鉄イオン０．１ｐｐｍを含有する生理食塩水で自重の４０倍重量に膨潤させた後、４０℃で８時間放置したときの粘度が２００００ｍＰａ・ｓ以上である吸水性樹脂と繊維状物質とを含む吸収体。
【請求項２】　上記吸水性樹脂の上記粘度が、３００００ｍＰａ・ｓ以上である、請求項１に記載の吸収体。
【請求項３】　上記吸水性樹脂の生理食塩水に対する飽和吸水量が４０ｇ／ｇ以上である、請求項１または２に記載の吸収体。
【請求項４】　上記吸水性樹脂の重量平均粒子径が２００～６００μｍである、請求項１ないし３のいずれか１つに記載の吸収体。
【請求項５】　上記吸水性樹脂が、内部架橋されている、請求項１ないし４のいずれか１つに記載の吸収体。
【請求項６】　上記吸水性樹脂が、表面架橋されている、請求項５に記載の吸収体。
【請求項７】　上記吸水性樹脂に含酸素還元性無機塩、酸化防止剤、金属キレート剤のうち少なくとも一種類が添加されている、請求項１ないし６のいずれか１つに記載の吸収体。
【請求項８】　上記吸水性樹脂の割合が、上記吸収体の全体重量の３０重量％以上１００重量％未満である、請求項１ないし７のいずれか１つに記載の吸収体。
【請求項９】　液体透過性シートと液体不透過性シートとの間に、請求項１ないし８のいずれか１つに記載の吸収体が保持されていることを特徴とする、吸収性物品。

【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１５】
したがって、本発明に用いられる吸水性樹脂は、人尿中の劣化因子の影響を考慮しつつ、それが使用された吸収性物品が実際の使用に耐え得るか否かが適確に判断されているため、それを含む吸収体を吸収性物品に使用したとしても、漏れなどの不具合が生じにくいものとなっている。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００８６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００８６】
重合終了後、含水ゲル状物から水分を１１７ｇ加熱留去した。脱水した含水ゲル状物に表面架橋剤として、２．８ｇの水に溶解したエチレングリコールジグリシジルエーテル９２．０ｍｇ（０．５ミリモル）を添加し、表面架橋反応を行った。その後、ｎ－ヘプタンを蒸留により除去して乾燥し、重量平均粒子径２５０μｍの吸水性樹脂９８．７ｇを得た。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００８７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００８７】
製造例Ｃ：
製造例Ａにおいて、１段目重合用の架橋剤の量を９．２ｍｇ（０．０６ミリモル）から２７．６ｍｇ（０．１８ミリモル）に、２段目重合用の架橋剤の量を１１．９ｍｇ（０．０７ミリモル）を３５．７ｍｇ（０．２０ミリモル）に、表面架橋時の架橋剤の量を１２６．６ｍｇ（０．７３ミリモル）に変更した以外は、製造例Ａと同様に反応を行い、重量平均粒子径３８０μｍの吸水性樹脂２２６．５ｇを得た。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００８８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００８８】
製造例Ｄ：
製造例Ｂにおいて、中和液に内部架橋剤として架橋剤のエチレングリコールジグリシジルエーテル２３．０ｍｇ（０．１３ミリモル）を添加、溶解して重合し、表面架橋剤の量を９２．０ｍｇ（０．５ミリモル）から５５．２ｍｇ（０．３ミリモル）に減らした以外は、製造例Ｂと同様の反応および操作を行って、重量平均粒子径２５０μｍの吸水性樹脂９８．７ｇを得た。
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００９５
【補正方法】変更
【補正の内容】

【００９５】

表２から明らかなように、４０倍膨潤後８時間経過した後の粘度が相対的に高い吸水性樹脂（製造例Ｃ～Ｈ）は、触感が良く、飽和吸収量も十分に確保されている。また、これを使用した吸収性物品（実施例１～６）は、平均吸収量が十分に確保されている上に、ゲル不良率が小さく、漏れが生じなかった。一方、粘度の低い吸水性樹脂（製造例Ａ、Ｂ）は、触感が悪く、これを使用した吸収性物品（比較例１、２）はゲル不良率が大きく、漏れが生じていた。